千曲市の残したい自然

千曲市の残したい自然

－　千曲市の自然を将来にわたって残すために　－

平成18年度

千曲市環境市民会議　残したい自然マップ作成プロジェクト・千曲市

目　次

千曲市の自然

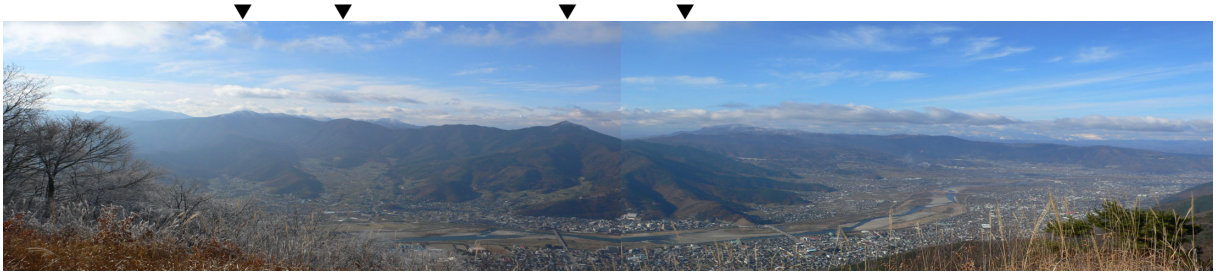
はじめに ―― 1
地　勢 ―― 2
河川・池沼 ―― 3
滝・清水（湧水） ―― 4
温　泉 ―― 5
里　山 ―― 6
植　生 ―― 8
植　物 ―― 9
保護上重要な植物 ―― 10
社寺林 ―― 11
重要な樹木 ―― 12
鳥　類 ―― 13
昆虫類（チョウ類） ―― 14
昆虫類（トンボ類） ―― 15
昆虫類（ホタル） ―― 16
両生類（ハコネサンショウウオ・カジカガエル） ―― 17
魚　類 ―― 17

千曲市の景観

すぐれた景観 ―― 18

資料編

千曲市の残したい自然マップ



五里ヶ峯山頂より

表紙写真　上段左から：アオバズク、ハグロトンボ
中段左から：姨捨の棚田、倉科の三滝
下段左から：オオムラサキ、セツブンソウ、ハコネサンショウウオ

はじめに

千曲市では、市民主体のもとで、平成１８年３月に「環境基本計画」を策定しました。そして、環境基本計画に盛り込んだ各種計画を実行していくために、平成１８年９月３０日に「環境市民会議」を設立しました。

環境市民会議では、各種計画を推進するため、環境市民会議設立準備会の段階から、それぞれの分野ごとでプロジェクトに取り組んでいます。

計画の一つである「千曲市の残したい自然マップの作成」も、千曲市のすぐれた自然を将来にわたって残すことを目的として、環境市民会議の有志が集い、現地調査で市内の社寺林や里山の自然を再確認し、また、市民が残したいと考えている自然について市民アンケートも実施して作成しました。

この冊子は、「千曲市の残したい自然マップ」の作成に取り組んで行く過程で得られた千曲市の自然環境の概況やすぐれた景観などについてまとめたものです。

この冊子により、多くの市民が千曲市のすぐれた自然や景観について知り、理解を深めていただき、千曲市の大切な自然を一緒に守っていくことができれば幸いです。

なお、残したい自然マップ作成プロジェクトでは、今後も市内の現地調査を通じて、「千曲市の残したい自然マップ」をさらに充実していく予定です。

平成19年3月

千曲市環境市民会議　残したい自然マップ作成プロジェクト

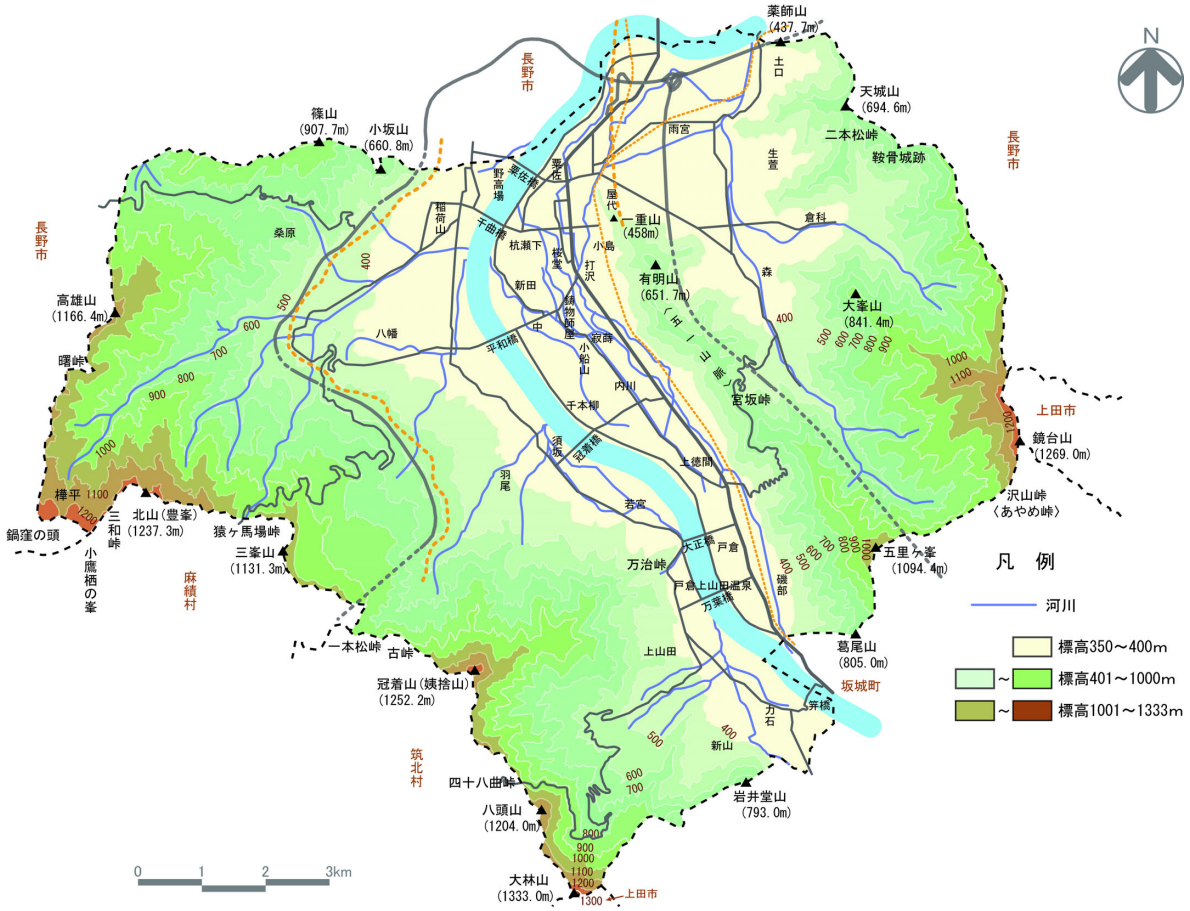
写真　右　上：大池水源（弁天清水）のスギの大木
　　左中央：デンジソウ
　　右　下：森のアンズ

Chikuma 千曲市の自然

●地　勢

千曲市は長野県北信地域の南東部に位置し、東西約 15km、南北約 14km、市の面積は 119.84km^2 である。標高の最高地点は大林山で 1,333m、最低地点は 353m で、その標高差は 980m である。

千曲市の地形は大きなハート型を示し、隣接する市町村との境界線は、大林山を最高峰とする 1,330m～400m の比較的低い山々による稜線（りょうせん）である。一方、低地は坂城広谷 [1)] が長野盆地の南端へと続く平坦な地形で、その中央を千曲川が蛇行しながら南から北にゆっくりと流れ下り、途中で大きく“くの字”に曲がって流下している。千曲川によって市域は東西に大きく二分され、両岸には平坦部が拡がっている。



1) 坂城広谷：千曲川貫通谷とも呼ばれ、東西の山地とその間を深く浸食した幅広い千曲川の谷。

●河川・池沼

千曲市の河川は市の中央を千曲川が流れ、千曲川の左岸側には佐野川（河川延長：4,905m、支流に中村川、中沢川、荏沢川など）のほか、更級川（2,500m、支流に宮川）、雄沢川（3,150m）、湯沢川（2,200m）、女沢川（2,507m）、寺沢川（2,750m、支流に日陰沢）が流れ、千曲川の右岸側には沢山川（7,848m、支流に三滝川（5,461m））が流れている。また、市内には多くの用水路が流れ、千曲市の豊かな水網を形成している。

池沼は主に千曲川の左岸側に多く分布し、大池（上池、中池、下池）を中心とする千曲高原一帯は市民の憩いの場として利用されている。

（参考）長野県：河川調書　平成５年５月１日現在

●滝・清水(湧水)

渓流に現れる滝は魅力的な景観であり、滾々（こんこん）と湧き出る清水は訪れる人に潤いを与え[1)]、また、古くから地域の重要な水源として守られている。

今年度(2006 年度)の調査では市内の主な滝や湧水を改めて確認したが、他にも沢山川の「可茂滝」や「奈良尾滝」、清水では、冠着山山腹の「坊城平の清水」や北斜面の「樽ノ口の清水」、北山麓の「大滝社の清水」などの他、雄沢川水源の「大入の清水」等々、今後の調査でその位置や状況をさらに再確認したい。

山の神清水

桜清水

三　滝

久露滝

女陰の滝

1) 市内の多くの湧水では、水質調査で大腸菌が検出されているため、生水での飲用は不可。

●温　泉

温泉は地中深くの地殻を熱源として温められた地下水であり、その寿命は有限である。このことから、自然からの恵みとして大切にしたい。

千曲市の温泉を代表する戸倉上山田温泉は源泉数 50 以上、湧出量は毎分 8000 リットルをゆうに超える。泉質は無色透明の単純硫黄泉がほとんどで、やや薄緑であったり、湯の花や気泡を含んでいるなど、源泉ごとに少しずつ違う。

森地区の森温泉は「一目 10 万本」の“あんずの里 森”の一角に豊かに湧き出す温泉で、周囲にはアンズとともに静かな田園地帯が拡がっている。泉質はアルカリ性単純泉。

稲荷山温泉は公衆浴場「湯ノ崎の湯」を併設した旅館であるが、かつて北国西街道の稲荷山宿として栄えた街並みの一角にある。泉質は硫黄泉。

参考）千曲市観光課資料

●里　山

千曲市の東側は、北から南へ、薬師山、天城山（てしろやま）、鞍骨（くらほね）城跡、その先へ長々とつづく上り下りの尾根は鏡台山に通じ、峠[1]をひとつ越えて五里ヶ峯にいたる。そして、五里ヶ峯からは、北西方向に宮坂峠、有明山、一重山へと続く長い山塊[2]が派生している。一方、西側は、北から南へ、篠山、高雄山、曙峠、鍋窪（なべくぼ）の頭、小鷹栖（こたかす）の峯、北山(豊峯)、猿ヶ馬場峠、三峯山、一本松峠、冠着山、四十八曲峠、八頭山、大林山、岩井堂山へと続く。

千曲市は、このような市町村界をなす里山に、ほぼハート型に囲まれ、その真ん中あたりを東寄りに縦断しているのが千曲川である。里山からの水は、いく筋もの川となって、やがて千曲川へ流れ込み、多くの扇状地（せんじょうち）を形成し、人々を住まわせている。

代表的な里山（登山道と眺望）

ーそのほかの里山は資料編を参照ー

鏡台山（きょうだいさん）1269.0m

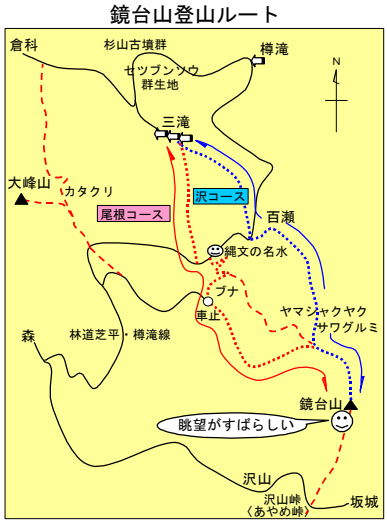
鏡台山は上田市と坂城町に接し、市内では２番目に高い山である。山頂からの眺望もすばらしく、北アルプス後立山連山、戸隠、妙高山、眼下に千曲川、屋代・川西地区から長野市を望め、少し下ると富士山を見ることができる。登山道は林道が山頂近くまで整備され、平坦なコースを１時間半ほどで山頂に着くことができる。時間と体力があれば三滝よりの尾根コースや沢コースの古道をお奨めしたい。縄文の名水、サワグルミ、ブナ、ヤマシャクヤク、フシグロセンノウ等々に出会える所要時間３～４時間、下り２～３時間のコースである。

姨捨展望台より

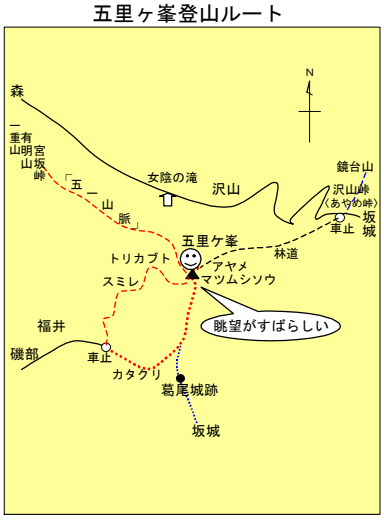
五里ヶ峯（ごりがみね）1094.4m

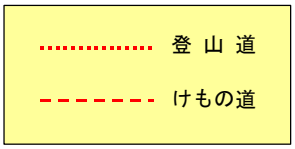
五里ヶ峯は千曲市と坂城町の境界にあり、山頂から南西へは葛尾山、北東へは「あやめ峠」を隔てて鏡台山へ尾根続きである。また、北西には屋代の一重山へと続く長尾根「五一山脈」を派生している。登山のルートとしては、まず磯部「米入口」から、砂防ダムを見て、「陰の松」を通り、稜線上にある鉄塔まで１時間、その先はアカマツなどの尾根道をゆっくり登ると１時間ほどで山頂である。ほどよい広さの草原で眺望もよい。植物、昆虫の豊富な楽しい峰である。福井からのコースもある。

鏡台山登山ルート

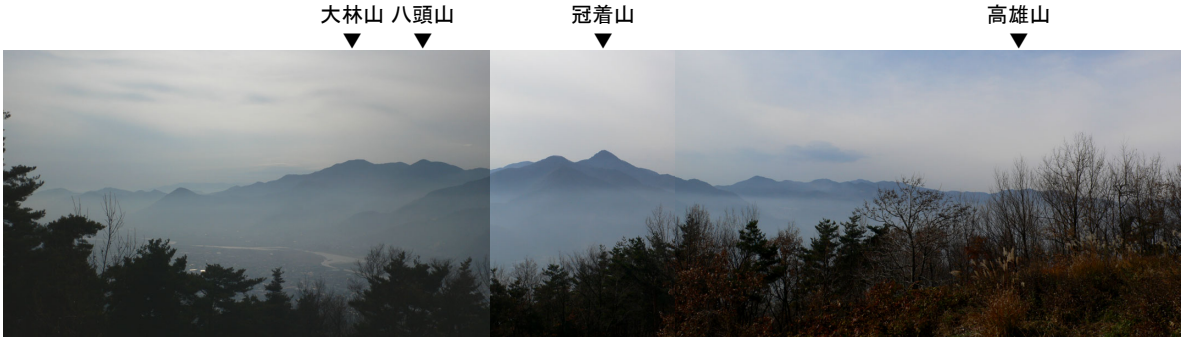


五里ヶ峯登山ルート





1)アヤメが多いことからプロジェクトで「あやめ峠」と命名。
2)五里ヶ峯から一重山につながる長尾根で、それぞれの頭文字をとり、プロジェクトで「五一山脈」と命名。



宮坂峠から望む千曲市の西山連山

高雄山（たかおやま）1166.4m

千曲市の西端に位置する死火山で、北、南、東からの３本の尾根が合流した山頂には三角点があり、長野市側からは整備された遊歩道があるが、千曲市側にはわずかにケモノ道のような山道があるだけである。この地域の植物相は太平洋要素（表日本要素）の北限であり、日本海要素（裏日本要素）の南限でもあるため、両者の移行の様子を見ることができる。

冠着山（かむりきやま）1252.2m

冠着山は千曲市と筑北村の境にあり、千曲市で３番目に高い山である。姨捨伝説や、手力男命が天の岩戸を背負って空を駆けた途中、頂上で一休みして冠を被りなおした、という神話の伝わる山である。端正な形状で、善光寺平の各方面から望むことができる。東斜面山腹の「児抱き岩（ぼこだきいわ）」は、遠方からも目視でき、人々から愛されるこの山の欠かせない表情のひとつ。北山腹には「屏風岩（びょうぶいわ）」が雄々しく立ちはだかる。空気の澄んだ日には、冠着神社のある山頂から、富士山を望むことができ、四方の雄大な眺望は絶景。北斜面には無数のコブシの大木が自生し、木陰にはヒカゲツツジも点在する。千曲市側からは更級小学校傍の道から林道を抜けて坊城平の青少年山の家へ、そこから山頂まで１時間ほど登山道を歩くルートが一般的。

八頭山（はっとうさん）1204.0m

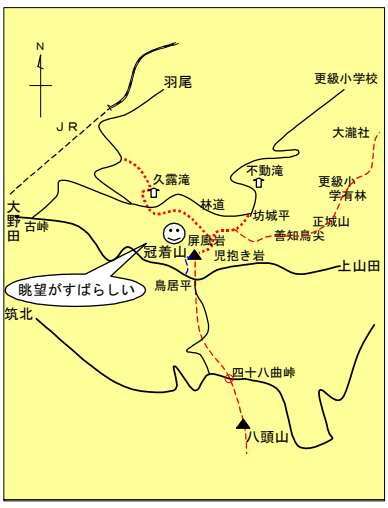
八頭山は大林山から北西に延びる支脈上にあり、かつての四十八曲峠をこえる県道が、この山腹を真横に横切っている。山容は南北に広く、北西に冠着山が連なり、山腹は茂った雑木林が広がっている。登山口は大林山への登山口と同じで、“ぽんぽんの平”の尾根に達したら、右に分岐して北に進む。頂上に向かってかなりの急坂である。最初に見えるピークの一つ先が山頂と思われるが標識等は何もない。カラマツ林と雑木に囲まれて見通しは悪いが、数十mほど東に出ると切り開きがあり、樹間から上山田方向への視界が開ける。

大林山（おおばやしやま）1333.0m

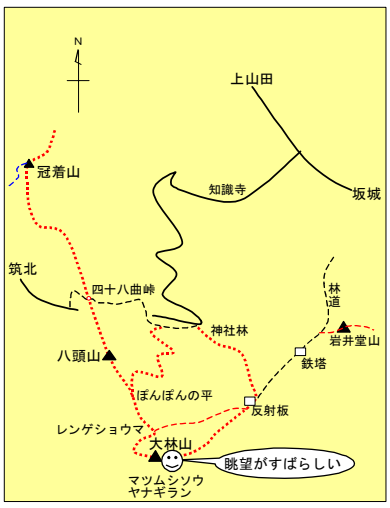
大林山は筑北村と上田市に接する千曲市の最高峰で、稜線は北西へ八頭山、冠着山、三峯山へと連なり、千曲川から見ると、南東から屏風のように立ちはだかり、その山容にはかなりのボリューム感がある。登山口は主要地方道大町麻績インター千曲線の閉鎖ゲートから徒歩で入る。ルートは２つあり、入ってすぐの清水神社林から急登し、南稜線を登る最短ルートと、坂上トンネルを右直下に見て八頭山へのルートでもある登山口から“ぽんぽんの平”を経由し、なだらかな稜線を進み「自在山へ」の分岐道標を見て西尾根に到達し、この尾根を東に返して山頂に着くルートが一般的。山頂は切り払われた広場で日当たりがよく、ワラビ、マツムシソウ、ヤナギラン等の植生がある。眺望に恵まれ、間近に八頭山、冠着山、北は北アルプスから妙高山、東は五里ヶ峯、根子岳、四阿山、浅間山、南は蓼科山、美ヶ原等が一望できる。

高雄山登山ルート

冠着山登山ルート



大林山・八頭山登山ルート

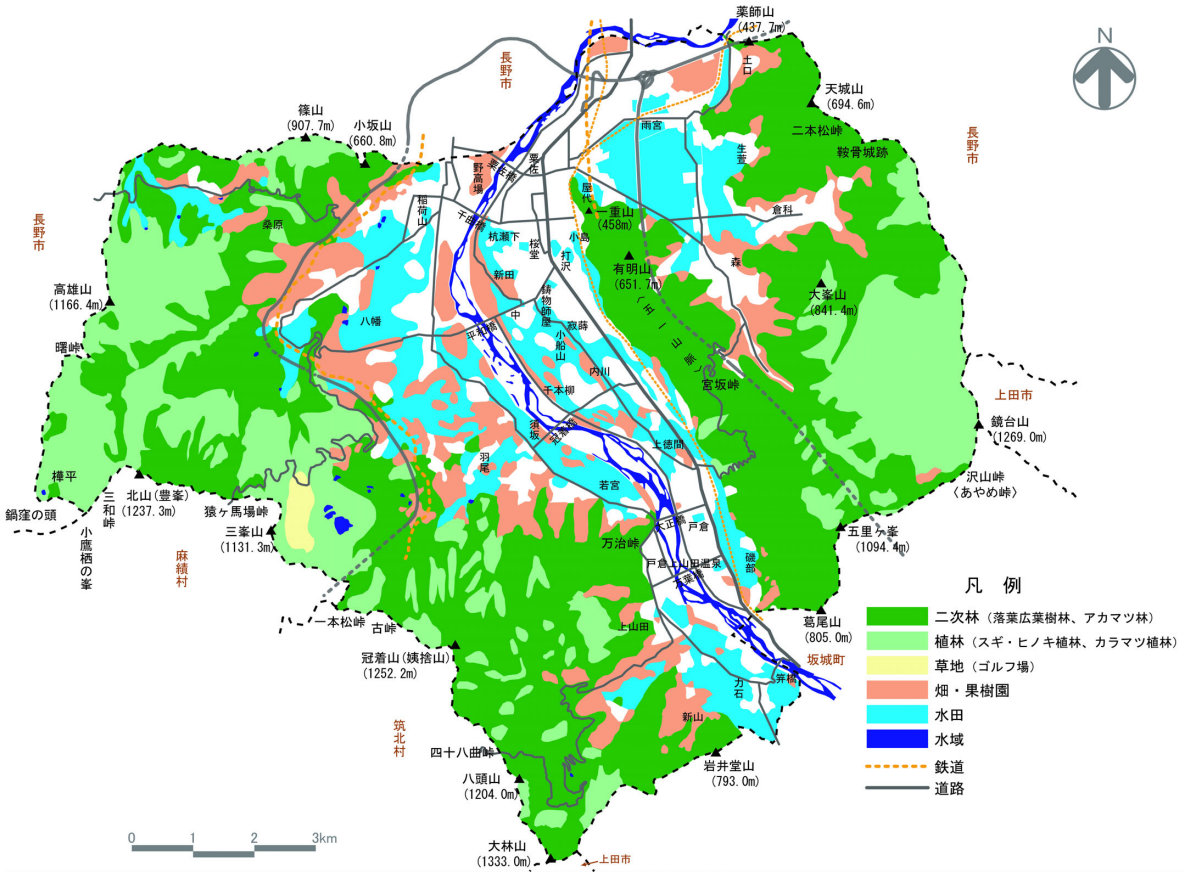


●植　生

環境庁（現環境省）による第３回自然環境保全基礎調査（植生調査）の現存植生図を元に、航空写真の判読により加筆・修正して植生図を作成した。

千曲市の東西には人為的な作用を受けた二次林と植林による山林が分布し、二次林は主として落葉広葉樹林（クリーミズナラ群落、カスミザクラーコナラ群落）とアカマツ林により構成されている。また、植林はスギ・ヒノキ植林とカラマツ植林で占められている。

畑や果樹園は主に谷筋や中小河川の扇状地に見られ、水田は主に畑や果樹園の下部と千曲川の氾濫原[1)]（はんらんげん）に見られる。



（参考）環境庁：第３回自然環境保全基礎調査（植生調査）　現存植生図　長野，坂城(1985)

1)氾濫原：洪水時に川から水があふれ出す範囲にある平野。現在は堤防が完備され、水があふれ出すことはほとんどない。

●植　物

地理的には表日本[1]と裏日本[2]の境になるのか、裏日本側に多いタニウツギ、ハイイヌツゲ、表日本のレンゲショウマ、タマアジサイが自生している。千曲市は植物垂直分布[3]でいう丘陵帯から山地帯下部に位置して、里山が主である。

山麓ではアンズ、リンゴ、ブドウなどの果樹が栽培されている。本来、山麓植物の代表であるオミナエシやキキョウ、ワレモコウなどは姿を消しつつあるが、里山には珍しい植物が多い。長野県版レッドデータブック[4]の絶滅危惧[5]（ぜつめつきぐ）ＩＢ類に該当するデンジソウ、Ⅱ類のセツブンソウ、ヤマシャクヤク、準絶滅危惧種のフクジュソウ、そして長野県では絶滅に近いとされていた絶滅危惧ＩＡ類のマルミノウルシが、環境基本計画策定のための現地調査中に発見された。この中でセツブンソウは、群落の大きさが県下一で、2006年に千曲市の天然記念物に指定され、市民による保護活動が行われている。絶滅危惧Ⅱ類のウマノスズクサは市内の土手や道端などに多いが、沢山川右岸の群落ではこれを食草としているジャコウアゲハの発生が見られるため、東小学校の児童と共に保護活動を行い、ピーク時にはチョウの乱舞が確認できる。

冠着山（姨捨山）は日本海から吹きつける風をまともに受け、積雪も多く、ここにはブナの巨木、オオバボダイジュ、トリアシショウマ、ハンゴンソウ、スミレサイシン、レンプクソウなどの裏日本要素の植物が多く、他にも希少な植物が多く見られる。

鏡台山には明らかに表日本の植物が多く、クサボケ、ダンコウバイ、ヤマコウバシ、ネジキ、オトコヨウゾメなどが生育し、他にもセツブンソウをはじめ希少種の群落が存在する。

タニウツギ

レンゲショウマ

アンズ（森地区）

ウマノスズクサ

スミレサイシン

クサボケ

1）表日本：太平洋側。　2）裏日本：日本海側。
3）植物垂直分布：標高（高度）による植物分布の変化（植物帯）。丘陵帯（低地帯）、山地帯、亜高山帯、高山帯の４つに区分される。
4）長野県版レッドデータブック：長野県が発行している絶滅のおそれのある野生動植物をまとめた出版物。環境省も国レベルでのレッドデータブックを発行し、他の地方自治体でも独自に発行している。
5）絶滅危惧：野生生物の絶滅の危険性。Ｉ類（ＩＡ類、ＩＢ類）やⅡ類などは、絶滅するおそれのある程度を示すランク。
絶滅危惧ＩＡ類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。
絶滅危惧ＩＢ類：ＩＡ類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。
絶滅危惧Ⅱ類：県内において絶滅の危険性が増大している種。
準絶滅危惧種：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有する種。

●保護上重要な植物

千曲市では、平成 17 年(2005 年)4 月に長野県で約 40 年ぶりの発見となったマルミノウルシの生育が確認されている。本種は環境省や長野県が絶滅のおそれがある植物として「絶滅危惧Ⅰ類＝絶滅の危機に瀕している種」に指定している。

このほか、環境市民会議による現地調査などにより、市内で生育が確認されている重要な植物としてはデンジソウ、セツブンソウ、タコノアシ、ウマノスズクサ、フクジュソウなどが知られている。また、長野県版レッドデータブックで、千曲市内に生育記録がある植物には、上記の植物も含めてミスミソウやサクラソウなど 28 種が記載されている。

重要な植物群落としては、千曲市と坂城町の境にある葛尾山のアカマツ林が「アカマツ－トウゴクミツバツツジ群落」として、長野県版レッドデータブック（植物群落編）においてＢランク（植物群落保護上の重要性が高いもの）に指定されている。

マルミノウルシ　（芽生え）

デンジソウ

セツブンソウ

長野県版レッドデータブックより
－千曲市で生育記録のある重要な植物－

○絶滅危惧ＩＡ類
－ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種－
ヒメビシ、ミゾコウジュ、エゾヤマアザミ、クロモ、イバラモ、ヒメアオガヤツリ、クマガイソウ

○絶滅危惧ＩＢ類
－ＩＡ類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種－
デンジソウ、ミスミソウ、オキナグサ、ミズユキノシタ、ツキヌキソウ、アギナシ、ヌマガヤツリ、ウキガヤ

○絶滅危惧Ⅱ類
－県内において絶滅の危険が増大している種－
サンショウモ、セツブンソウ、ヤマシャクヤク、サクラソウ、ニシキソウ、ムラサキセンブリ、フナバラソウ、ウリクサ、オニシオガマ、タカサゴソウ、ウスギタンポポ、ヤナギモ、イトモ

（参考）
長野県：長野県版レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～維管束植物編(2002)

●社寺林

市街地に見られる社寺林の多くは、ケヤキ、スギ、カエデ、サクラ、カヤ等が多く、何百年もの年輪を重ね、うっそうと繁り社叢[1)]（しゃそう）・寺叢[1)]（じそう）を形成している。その中でもケヤキの巨木や古木が数多く見られる。また、大雲寺や観龍寺の寺叢は、周辺の森林や池等と見事に調和し、一つの美しい景観を作り出している。武水別神社は市内一の広さを持ち、社叢は県の天然記念物[2)]に指定されている。高台から見ると大きな森に見えるが、境内は明るく市民のやすらぎの場となっている。社寺林は地域の人々に大切に守られながら市街地に点在し、珍しい樹木や巨木（古木）もその中に多く残されている。私達の生活の中で、最も身近に感じることのできる自然豊かな風景であり、今ここで、あらためてその価値を見直し、後世に残していきたい。

代表的な社寺林

－そのほかの社寺林は資料編を参照－

智識寺（上山田地区）

カヤ、イヌエンジュ、スギ、ケヤキ、カエデなどがうっそうと繁り、茅葺き（かやぶき）の本堂と調和し、見事な寺叢を形成している。別名アジサイ寺ともいう。現在は無人寺。市指定天然記念物。

三島社（戸倉地区）

リンゴ畑に囲まれた小さなお宮。二本のケヤキの巨木は市内で最大クラスの大きさ（幹囲７ｍ以上、高さ２３ｍ以上）。数本のケヤキ、エンジュ、コガキ、スギ等がうっそうと繁り、昼間でも少し暗い鎮守の森。

佐良志奈（さらしな）神社（戸倉地区）

境内は広大な面積で樹木の数が多く、うっそうとした社叢をなしている。カツラ、ケヤキ、カエデ、スギ、ヒノキ、ヒマラヤスギ、イチイ等の管理も良い。すぐわきにはカタクリの群生地もあり、橋のたもとにあるシンパク（ビャクシン）の古木とともに残したいところ。

武水別神社（更埴地区）

遠方から眺めると神社全体が一つの大きな森に見える。太鼓橋を右に石畳を進むと、ケヤキ、スギ、カエデ等が高く繁るが意外と境内には空間が広がり明るい。社叢が県の天然記念物に指定。

大雲寺と霊諍山（れいじょうざん）（更埴地区）

石垣の上に建つ寺、ハスの池、なだらかな稜線の霊諍山のスギ林が一つの景観を作り出している。春のサクラ、夏のハス、秋の紅葉、冬の雪と松。四季を通じ気高く神秘的。すぐ横に外池があり自然の状態が保たれている。埋め立てなどしないで欲しい。県の郷土環境保全地域[3)]に指定。

観龍寺と大峯山（更埴地区）

境内は傾斜地で見晴らしが良い。今は無人寺だが、サクラが多く植えられ手入れが行き届いている。周囲にはアカマツの自然林や広葉樹林が分布し、夏には静まり返った境内に蝉時雨（せみしぐれ）が降り注ぐ。山麓一体の森のアンズと調和している。千手観音坐像は県宝指定。県の郷土環境保全地域に指定。

粟狭神社（更埴地区）

郷社として地域で崇敬され、土俵がある。古木が多い。二本のケヤキの巨木は落雷のため損傷を受けたが、今なお力強く繁り、社叢の中でひときわ目を引く。

1）社叢・寺叢：神社や寺のうっそうとした森で、古くから守られているため巨樹や巨木（古木）が多い。
2）天然記念物：動物、植物、地質、鉱物、天然保護区域などで、学術上価値の高いものとして国または地方自治体（県・市町村）が指定したもの。
3）県郷土環境保全地域：市街地周辺の森林や草地、湖沼などがある自然豊かな区域で県が定めた地域。

●重要な樹木

市街地においては、珍しい樹木や巨木(古木)の多くは社寺林に見られ、地域の人々によって大切に守られている。長楽寺のカツラは推定樹齢 1000 年を数え、ケヤキの巨木や古木は推定樹齢700～800 年と言われている。一方、千曲高原の大池水源(弁天清水)一帯に広がるスギ林は、巨大なスギが整然と天高く真っ直ぐに伸び、神々しい豊かな自然とスケールの大きさに圧倒される。

重要な樹木・巨木（古木）

柏王（かしお）の大カシワ
幹囲４５０㎝。高さ１２ｍ。雑木に囲まれているが枝張り良く１６ｍ。推定樹齢３００年。市指定天然記念物。

柏王の大カシワ

獅子ケ鼻のビャクシン
大正橋南、八王子山が落ち込むところに巨岩が突き出ている。この岩に１本生えている。幹囲２５０㎝。枝張り９ｍ。盆栽会では別名をシンパクと呼び珍重。

更級小学校のムクロジ
校庭の隅に独立木[1]としてこんもりと繁っている。幹囲１７０㎝。高さ１３ｍ。

獅子ヶ鼻のビャクシン

三島社のケヤキ２本
２本のケヤキは市内で最大クラスの大きさ。幹囲約７００㎝。高さ２３ｍ。

明徳寺（めいとくじ）の大スギ
独立木なので遠くからも良く見える。幹囲４８０㎝。高さ２６ｍ。推定樹齢７５０年。市指定天然記念物。

見性寺（けんしょうじ）のタラヨウ
葉の裏面を傷つけるとその部分が黒くなり、これを利用して文字が書けるため“手紙の木”と呼ばれる。暖地の木として最北にある。幹囲１９０㎝。高さ１４ｍ。市指定天然記念物。

見性寺のタラヨウ

波閇科（はべしな）神社の才兵衛ヒバ
ヒバの古木数本。貴重な種類のヒバ。幹囲１４０㎝。高さ２０ｍ。

天狗のマツ
戸倉自在神社境内にある。幹囲３８０㎝。高さ３０ｍ。推定樹齢４００年。雑木の日陰となり弱ってきたため、周囲の木を切り保護に努めている。枯れ枝も目立つ。市指定天然記念物。

長楽寺のカツラ
幹囲４５０㎝。高さ２０ｍ。推定樹齢１０００年。姥岩の下に生えている。市指定天然記念物。

天狗のマツ

開眼寺（かいがんじ）のサワラとスギ
サワラは、幹囲３１０㎝。高さ３９ｍで最長。スギとともに推定樹齢３５０年。

大池水源（弁天清水）のスギ林
水源の清流にはトワダカワゲラ[2]が生息。ウワバミソウが周囲一面に生育している。祠が祭られており、その辺りから見上げるようなスギの巨木が斜面一体に広がっている。

1)独立木：一本だけ独立している木。
2)トワダカワゲラ：川の源流など、きれいな水にすむ水生昆虫のカワゲラの一種で、十和田湖に注ぐ小渓流で初めて発見された。日本では４種が知られている。

トワダカワゲラ（幼虫）

開眼寺のサワラとスギ

大池水源(弁天清水)のスギ林

●鳥　類

千曲市の特色は、市内を貫く千曲川を中心に東に五里ヶ峯、鏡台山、西に大林山、冠着山の峰々があり、いずれも自然に恵まれた山である。

30 年余りの野鳥観察記録によれば、千曲市では 43 科 181 種の鳥類が確認されている。このうち 80%弱が渡り鳥[1]で、北から南へ、南から北へと、移動中継地として位置づけられている。近年ではコハクチョウ数十羽が越冬した。

山地、里山の猛禽類[2]（もうきんるい）の多さから言っても、自然の豊かさが感じられる。

千曲川の鳥類

観察記録によると約 140 種以上が確認されている。

ヨシ原はカッコウ、オオヨシキリの夏鳥の繁殖地でもある。ツバメ類の中継地として数千羽が休息、ねぐらとして利用している。留鳥[3]（りゅうちょう）のヒバリ、ヤマセミ、カワセミも繁殖の場としている。冬鳥のガン・カモ類も毎年数百羽が越冬する場所であり、草原ではオオジュリン、カシラダカ、シメなどの冬鳥も数多く越冬が確認されている。珍鳥のヤマヒバリ、シベリアジュリン、アリスイの移動中継地にもなっている。

千曲川に飛来したコハクチョウ

カワセミ

里山の鳥類

特徴として鳥類の頂点にいる猛禽類が多い。

山地ではイヌワシ、クマタカの飛翔が定期的に観察されている。本州では数少ないイスカの幼鳥も確認された。

沢山川、三滝川の周辺ではヤマドリ、サンコウチョウ、オオルリ、キビタキなどの森林性の鳥類が確認され、自然の豊かさが実証されている。

千曲高原でもフクロウ、ハチクマ、クロツグミ、ノジコ、水鳥のカイツブリが観察され、早春にはマヒワやカシラダカが生活の場としている。

オオルリ

キビタキ

山麓・市街地の鳥類

神社仏閣の森ではフクロウやアオバズクの巣立ち雛が何箇所かで確認されている。市街地ではここ数年チゴハヤブサの営巣が発見され、今年(2006 年)も２羽の幼鳥が巣立ったことを確認した。残念なことに倉科のチゴモズ、千曲川のセッカ、アカモズは姿を消した。

フクロウ

1)渡り鳥（夏鳥：夏に日本の国内で繁殖し、冬は日本より南の国で越冬する鳥、冬鳥：夏は日本より北の国で繁殖し、冬は日本で越冬する鳥、漂鳥：日本国内で山と平地、あるいは北日本と南日本を行き来する鳥）。
2)猛禽類：主にワシやタカ、フクロウのなかま。他の生物を狩りする肉食の（もしくは死んだ動物を食べる）鳥類をさす。獲物を捕まえるための鋭い爪、つかむ力が強い足、かぎ型に曲がったくちばしを持つことが共通の特徴。
3)留鳥：スズメなどの一年中同じ地域で生活する鳥。

●昆虫類（チョウ類）

平坦部の山麓から山地帯の稜線まで多様で複雑な自然環境を含んでいるためか、南方系の種[1)]から北方系の種[2)]まで幅広い種類のチョウが生息している。千曲市で現在確認されているチョウは67種余り(H16～18年)で、長野県で確認されているチョウの約45%にあたる。この中には貴重な絶滅危惧種（留意種[3)]を含む）が6種含まれている。千曲市を流れる千曲川は上田方面から北西に向かって流れ下り、屋代付近で徐々に北に転じ、屋代地区の北端で東に向けて流れている。千曲川によって東西に分割されている地域は、地質の違いか環境や地形がやや異なる。

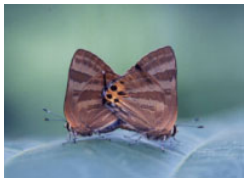
千曲川の東部地区　（調査地点：屋代の平坦部と倉科、森地区の山麓の中腹部）

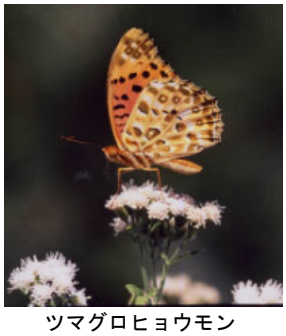
－更埴条里（こうしょくじょうり）水田跡上に広がる平坦地、それに続く扇状地形と山麓－

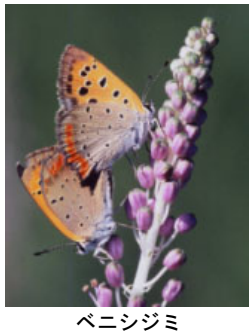
人家にまで訪れるアゲハチョウをはじめヒメアカタテハ、キチョウ、メスグロヒョウモン、ルリシジミ、ベニシジミなどがモンシロチョウに混ざって良く見られる。また、近年、分布地を北に拡大しているツマグロヒョウモンも見られる。なお、河畔にジャコウアゲハのビオトープ[4)]が造られている所がある。

山麓の畑から山の中腹にかけての雑木林やスギ林の樹間に広がる草地には、オオムラサキ、トラフシジミ、ミスジチョウ、ヒオドシチョウ、ミドリシジミ、スミナガシ、ミズイロオナガシジミなど大小のチョウが多数飛翔している。中には、絶滅危惧種のチョウ類も確認されている。

キチョウ


トラフシジミ

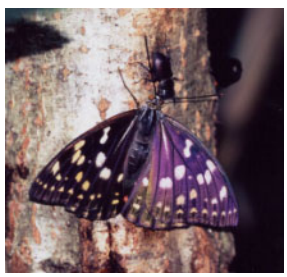

ツマグロヒョウモン

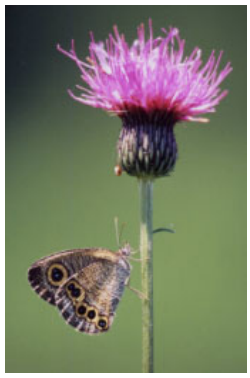

ベニシジミ

千曲川の西部地区　（調査地点：千曲高原、大田原地区と山麓）

三峯山の麓に広がる高冷地の千曲高原には、クロアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、メスグロヒョウモン、ウラナミアカシジミ、オオムラサキなど大小多数のチョウが飛翔している。大田原地区ではモンシロチョウ、スジグロシロチョウなどがラベンダーの花に群がっているのが見られる。そのほかに、東部地区で見られなかったウラギンヒョウモンをはじめ、ヒョウモンチョウ類が草原の花に群れ飛んいるのが見られる。ミズイロオナガシジミなどのゼフィルス類[5)]の飛翔も見られる。

ミヤマカラスアゲハ


オオムラサキ


ヒメウラナミジャノメ

ジャコウアゲハの幼虫

ウラナミアカシジミ

1)南方系の種：南の地方に分布する種。　2）北方系の種：北の地方に分布する種。
3)留意種:絶滅危惧の対象種ではないが、特殊な事情を有するため、留意するべき種(長野県版レッドデータブック動物編2004)。
4)ビオトープ：生きものの生息環境や人工的につくられた自然の環境。
5)ゼフィルス類：ミドリシジミ族（ミドリシジミのなかま）で美しい羽をもつ種類が多い。

●昆虫類（トンボ類）

長野県で記録されているトンボは約 90 種類であり、千曲市にはおよそ 50 種類ほど生息している。特徴は北方系の種（エゾイトトンボなど）が南方系の種（チョウトンボなど）より多く生息していることである。今、トンボにとって憂慮（ゆうりょ）すべき事態は、水田の減少と八幡大池などの池や川に外来魚[1]が繁殖しており、幼虫が食べられるなどの影響を受けていることである。

水田・ため池のトンボ

市西部の山間地にいくつかのため池があるが、その中の代表的な八幡地区の平沢池には春から秋にかけ、クロスジギンヤンマ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、オニヤンマ、タカネトンボ、ネキトンボ、オオルリボシヤンマなどを見ることができる。姨捨棚田では、ハラビロトンボ、シオヤトンボ、マユタテアカネ、ナツアカネなどが、また休耕田（６月～９月に水のある水田）では、南方より渡ってくるウスバキトンボが多数羽化している。

コシアキトンボ

ハラビロトンボ

ナツアカネ

ウスバキトンボ

公園のトンボ

意外にも市街地に近い公園の池は、トンボにとって一種のビオトープであり、多くのトンボがいる。上山田萬葉の里公園では、ギンヤンマ、セスジイトトンボ、ミヤマアカネ、マイコアカネなどが、稲荷山公園トンボ池では、オツネントンボ、アジアイトトンボ、ヨツボシトンボ、コフキトンボ、アキアカネなど、毎年 20 種ほどのトンボがいる。更埴中央公園にはハグロトンボなどが生息する。

ギンヤンマ

アジアイトトンボ

千曲川・河川のトンボ

千曲川には、流水性[2]のトンボであるカワトンボ、ハグロトンボ、オナガサナエ、ミヤマサナエ、コオニヤンマが、倉科地区の三滝川と八幡地区の中村川には長野県の準絶滅危惧種[3]であるミルンヤンマが生息している。東小学校の横を流れる大堰（おおせぎ）には、ハグロトンボ、セスジイトトンボが生息している。

ハグロトンボ

ミルンヤンマ

1) 外来魚：外国から持ち込まれた魚（ブラックバスやブルーギルなど）。
2) 流水性：渓流などの流れている水にすむこと。
3) 準絶滅危惧種：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有する種。

●昆虫類（ホタル）

近年、下水道整備事業が全市に及びつつあり、それに付随して市街地の河川の水質が改善してきている。一方、有志による「ホタルの会」がつくられ、復活への活動や調査活動が各地で根気良く行われ、雄沢川、宮川、更級川などで、多くのゲンジボタルの飛翔が見られるようになってきている。また識別珪藻群法[1]（しきべつけいそうぐんほう）によるゲンジボタル発生地の水質調査の結果は、汚濁指数[2]（おだくしすう）が 1.20～1.40 の範囲で水質階級は「きれい」である。更埴地区を流れる汚濁指数が 1.5 以上の河川では発生していない。このことから、ゲンジボタルへの関心が市民の中に高まり、河川でのゲンジボタル発生の可能性が汚濁指数で議論されるようになってきている。

地図の 4.7.8.10 の地区

八幡地区で自然発生のゲンジボタルが最初に観察されたのは宮川（4）で、その範囲が次第に広がってきている。（7.8.10）の地区では、幼虫が放流されて、ホタル復活への試みが根気良く重ねられているが、自然発生には至っていない。

地図の 3.5.6.9.12 の地区

千曲市で有志による発生への取り組みが最初に試みられた場所が、「姨捨棚田ホタルの里」（12）で、以後棚田の水域部分（3）にゲンジボタルの発生が次第に広がってきている。（5.6.9）の地区では地区住民の協力で取り組みがなされ、発生時にはにぎやかにホタル観察会が定期的に実施されている所もある。

地図の 1.2.11 の地区

千曲高原のため池から流れ出る滝の近くの（1）は、更級川最上流地点である。今年(2006 年)の 6 月 25～30 日の間、200～300 匹のゲンジボタルの乱舞が見られ、多くの観客に感動を与えた。大田原地区（11）は標高が 700～800mの高地であるが、毎年ゲンジボタルの飛翔が見られていた。ここ 2 年ほど河川工事で見られなくなり、住民による復活への取り組みがなされている。千曲高原（2）は標高 800～900mの高冷地のためか、発生は見られていない。

1) 識別珪藻群法：水質の汚濁に対する珪藻の出現特性により、珪藻を３つのグループ（強汚濁耐性種群、中汚濁耐性種群、弱汚濁耐性種群）に分け、生物学的に水質を判定する方法。判定結果は汚濁指数[2]で表され、「1.0 以上 1.5 未満はきれいな水」、「1.5 以上 2.5 未満は少し汚れている水」、「2.5 以上 3.5 未満は汚れている水」、「3.5 以上 4.0 以下はひどく汚れている水」と判定される。

2) 汚濁指数：主に水の汚れの程度を数値で示したもの。

●両生類（ハコネサンショウウオ、カジカガエル）

市内の山間部を流れる河川の上流部には、ハコネサンショウウオやカジカガエルがひそかに生息している。これらの種は清冽な水でないと生きられない生物であり、すなわち、清らかな水が流れていることの証しでもある。

流水性のハコネサンショウウオは今のところ更埴地区の三滝周辺や樺平、戸倉地区の久露滝、上山田地区の氷清水での生息が確認されているが、ほかの河川の上流部でも生息しているものと思われる。なお、氷清水のハコネサンショウウオは市の天然記念物に指定されている。このほか、止水性[1)]のクロサンショウウオが生息する可能性もあることから、今後の調査で確認したい。

カジカガエル（河鹿蛙）はその鳴き声がシカに似ていることから名付けられたカエルで、沢山川の上流部では春から夏にかけて「フィフィフィフィフィフィ、フィーフィー」というオスの美しい鳴き声を聞くことができる。渓流の瀬音とともに聞こえるカジカガエルの鳴き声は初夏の風物詩である。

三滝周辺のハコネサンショウウオ

沢山川上流に生息するカジカガエル

●魚　類

千曲川にはコイやフナ類、ナマズ、ウナギ、ウグイ、オイカワなどの他、非常に多くの魚類が生息している[2)]。春から夏には千曲川の風物詩とも言える“つけば”がひらかれ、初夏にはアユを狙う釣り人が県内外から多く訪れて賑わいを見せる。

沢山川の上流部にはカジカが生息し、放流魚であるがヤマメも生息する。どちらも清流を好む魚であり、清らかな水が維持されていることを意味する。また、意外と知られていないが佐野川の上流にはイワナが生息している。佐野川は酸性河川であり魚類の生息には適していないが、上流部の水質は酸性ではないため、限られた範囲ではあるがイワナの泳ぐ姿が見られる。イワナは河川の最も上流に生息する淡水魚で、長野県に生息するイワナにはニッコウイワナとヤマトイワナの２種類が知られているが、本来の生息分布域から判断すると佐野川のイワナはニッコウイワナである可能性が高い。

イワナ（資料写真）

1) 止水性：池や沼などの流れていない水にすむこと。
2) 更埴漁業協同組合への聞き取りでは、千曲市域の千曲川には約 25～30 種類の魚類が生息し、確実に生息している種はウナギ、アユ、ニジマス、オイカワ、ウグイ、アブラハヤ、タモロコ、カマツカ、ニゴイ、コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、ドジョウ、シマドジョウ、ギギ、ナマズ、メダカ、カムルチー、オオクチバス、ブルーギル、トウヨシノボリ、カジカとのこと。

Chikuma 千曲市の景観

●すぐれた景観

千曲市を代表するすぐれた景観（景色）には、千曲市のシンボルとも言える千曲川をはじめ、姨捨の棚田（田毎の月）、森・倉科のアンズ、漆原（うるしばら）・八坂のリンゴ園、大雲寺のハスなどがあげられる。

千曲川

市内を流れる千曲川は信濃川の中流域に位置し、千曲橋付近を除き、広々とした川幅で大河にふさわしく、大きく弧を描き蛇行を繰り返しながら緩やかに流れている。これが本当の美しい川の姿である。ことに大正橋から平和橋の間には、低水位護岸[1)]（ていすいいごがん）の施工が少ないので、瀬があり、流れが緩やかで自然の豊かさが感じられる。

冠着橋下流域の河川敷には大小の池（たまり）がいくつもあり、水位の変動はあるものの、豊富な伏流水によって枯れることがなく、水生動物の住みかでトンボ等が多く観察される。また、伏流水によって大きな「わんど[2)]」が形成され、自然が作ったビオトープでもある。広々とした氾濫原（はんらんげん）には玉石や砂利場があり、チドリやヒバリなどの繁殖の場でもある。

大正橋下流では両岸に運動公園や果樹園があり、人々の活動や触れ合いの場ともなっているが、河道敷きの広く大きな中州には羽を休めている数多くのサギやカモ類が観察でき、春先には野草のお花畑が出現する。数年前まではカワラヨモギが優占していたが、いつしか黄色一色となるハルザキヤマガラシ、翌年にはシロバナシナガワハギが繁茂して河原が白一色となった。近年はオオブタクサの草原となり、アトリなどの渡り鳥の格好の餌場となっている。このように洪水により年々変移する植生に注目するのも良いのではないかと思う。また外来植物[3)]のアレチウリ、ハリエンジュ等が繁茂して景観が大きく変わりつつある。

冠着山と千曲川

宮坂峠から望む千曲川
（戸倉・上山田地区方向）

緑豊かな流れ（平和橋～千曲橋　右岸）

1) 低水位護岸：常に水が流れている水位の川岸を守るための護岸。
2) わんど：川の本流とつながっている止水域（水のよどんだ場所）。自然が豊かで、多くの動物や植物が見られる。魚が産卵し、稚魚が育つ場所でもある。
3) 外来植物：外国から持ち込まれた植物。帰化植物（きかしょくぶつ）とも呼ぶ。文章中のハルザキヤマガラシやシロバナシナガワハギ、オオブタクサも該当する。

千曲川によせて

千曲川の自然（岩崎～万葉橋～大正橋）

ここは千曲川の中流域にあり右岸の岩崎、左岸の獅子ヶ鼻へとぶつかり流れの向きを変える。いくつかの中州が作られたり、消されたり、時には大きな災い、また豊かな恵みも残して流れる。現在、万葉橋と大正橋の間は禁猟区ということもあり、カワラヒワ、スズメ、カワセミ、トンビ（トビ）、カラス、オオヨシキリ、ジョウビタキ、キジ等々多くの鳥が生息し、カモなどの冬鳥の越冬地にもなっている。川原にはキツネ、タヌキ、ハクビシンなども確認でき、水中にはウグイ、フナ、コイ、ニゴイ等の魚類、蝶やトンボ、水生昆虫も多く、川辺に多い帰化植物も変化しつつ植生を重ね、アレチマツヨイグサ、ハリエンジュ、ハルザキヤマガラシ、アレチウリ、シナダレスズメガヤ、イタチハギ、また、ヤナギ類、オニグルミ、ガマ、ヨシ、マコモ、ヒシ等々も見られる。

万葉集に「信濃なる筑摩の川のさざれしも君し踏みてば玉と拾わむ」と歌われたのはこのあたりではないかと言われ、上流からのさまざまな岩石が川の流れで角を摩滅され、川床礫（細石）として川原の景色を特徴付けている。また、古くより川原には温泉の湧出があり、現在はボーリングによる温泉くみ上げであるが、この温泉もまた有限であり、大自然からの恵みとして大切にしたい。

河川敷の利用もなるべく自然に近い状態での活用とし、動植物との共生の場でありたい。

そして、川遊びのできるきれいな水を下流域へと送り継いで行きたい。

千曲川雑感

屋代の粟佐に住んで３８年、千曲川は常に親しんできた川である。

千曲橋、粟佐橋は自転車でよく渡るし、左岸堤防のサイクリングコースも気に入っている。四季折々の川の色、特に厳寒の紺碧の色は美しい。また台風などの洪水の濁流が堤防近くまで広がってごうごうと押し寄せるさまも忘れがたく、自然の威力を思い知らされる。こんなとき、河川敷の農作物はひとたまりもない。マレットゴルフ場、野球グランド、親水公園、緑地公園などの河川敷に進出していた人工的なものは一掃される。

年に一、二度荒れ狂っては、悠久の時を流し続けている母なる川は何人をも引きつけて止まない。川の水はきれいなことと、その両側の「空き地」つまり河川敷の自然は豊かであることが必要なのではないか。

ここは、いろいろな生き物が棲息するための聖域（サンクチュアリ）で、獣、鳥、昆虫などを育んでいる場所である。千曲川の夕暮れはにぎやかである。カラス、ムクドリ、オナガ、トビ（トンビ）、ノスリ、チドリ、セキレイ類、カワセミ、カワラヒワ、スズメ、冬のカモ類。春にはツバメ、初夏にはオオヨシキリ、それにコサギ、アオサギ、ゴイサギ、ヨシゴイ等々、昔は多かったのだろうセッカ、コヨシキリなどは見かけなくなっている。河原で遊んで夕方は塒（ねぐら）に帰るもの、河原が塒で帰ってくるものなど、とにかく河原は生き物の集合場所である。

河川敷にはヨシ、その他水辺の環境にふさわしいものを育成したい。知らないうちに広大なヨシ原が刈り取られ、人間に都合の良いように整備されてしまう身勝手さが悲しい。釣り等の人々も河川敷に平気で車を走らせる。何か規制を定めて、河川敷一帯の保護をしたいものである。他の生き物との共生をふまえたそれこそが千曲川の景観となるのではないか？

Chikuma 千曲市の景観

姨捨の棚田（田毎の月）

ＪＲ篠ノ井線の姨捨駅からほど近く、傾斜地に広がる棚田は江戸時代中頃から明治時代初期にかけて開田され、現在は 25ha、約 2000 枚の棚田が現存している。この棚田のもつ土地の保全機能やその眼下に広がる善光寺平、そして周囲の山々と形づくる景観などが評価され、平成 11 年に棚田として全国で初めて国の名勝に指定され、また、日本の棚田百選にも認定された。

宵闇（よいやみ）せまるころ、千曲川対岸の鏡台山から月が昇り、田の一枚一枚に映り込む小さな月は「田毎の月」と呼ばれ、実りの季節には黄金色の稲穂が田毎に風に揺れ、懐かしい風景を演出する。

千曲市では「棚田貸します制度」を設け、棚田保全への協力者を募っている。多くの人々の棚田への思いが、田毎の月を守っている。

参考）千曲市農林課・商工観光課資料

名勝、姨捨の棚田

多くの人の手で守られている棚田

森・倉科のアンズ

森・倉科地区一帯は「日本一のあんずの名所」であり、花に囲まれて歩くも良し、展望台からの眺めも素晴らしい。推定樹齢 250 年のアンズの大木もあり、市の保存樹木[1)]に指定されている。

この地にアンズがもたらされたのは元禄時代。伊予宇和島藩主伊達宗利の息女豊姫が、第三代松代藩主真田幸道侯に輿入れ（こしいれ）の折り、故郷をしのぶよすがにと、アンズの種子を持参したのが始まりと言われている。その後、松代藩では殖産（しょくさん）のため奨励し、今日の姿になったものである。

参考）千曲市商工観光課資料

ピンク色に染まる森のアンズ

1) 市の保存樹木：千曲市が保存の（大切に守るための）対象として定めた巨樹や珍しい樹木。

Chikuma 千曲市の景観

漆原・八坂のリンゴ園

戦後昭和 30 年代、農家の収入安定のため、水田と桑畑にリンゴが植えられた。その後 50 数年、味のよい老木や歪化(わいか)育成[1)]した木々を、老夫婦や若い後継者が今日まで守り育て、初夏には紅色の縁取りの白い花を付け、秋にはたわわな真っ赤な実となり、この地域全体に見事な景観を作り出している。

たわわに実った漆原・八坂のリンゴ

大雲寺のハス

大雲寺は百余体の石仏がたたずむ霊諍山を背景に建つ禅宗の古刹(こさつ)。春は 400～500 本のヒガンザクラ、ソメイヨシノ、シダレザクラが咲き、大雲寺池に写る桜並木の花が見事である。夏（７月上旬～８月上旬）は池一面に色の濃いハスの花が咲き、長野の自然百選にも選ばれ、県の郷土環境保全地域に指定されている。

背景の霊諍山と大雲寺

大雲寺池一面に咲くハスの花

キティパークのサクラ

戸倉宿キティパークよりの眺めは、眼下に千曲川が横たわり、対岸には上山田温泉をのぞみ、奥には上山田から更級にかけての山々を見渡すことができる。このようにパークからの眺望もよいが、キティパーク自体も印象的な景観である。とりわけ、春の桜の頃はパークに植えられたソメイヨシノや在来のヤマザクラが標高差によって、麓から順々に開花し、下から上まで２週間ほど楽しむことができる。このころは、パークに足を運ぶと、低木のレンギョウも花を咲かせており、サクラの淡いピンク色とレンギョウの黄色がたいへん美しい対比を見せる。

キティパーク付近には、市の天然記念物に指定されたセツブンソウの群落もある。

市民に愛されるキティパーク

1)歪化育成：リンゴの場合、木の高さを低く抑えることにより収穫しやすくすること。太陽の光も広く当てることができる。